

平成30年度第4回過疎問題懇談会 議事概要

(開催要領)

1. 開催日時：平成30年12月5日(水) 15:30～17:30
2. 場 所：総務省9階第3特別会議室
3. 出席者
 - ・座長：宮口 侗廸 早稲田大学名誉教授
 - ・委員：青山 彰久 読売新聞東京本社編集委員
 - 太田 昇 岡山県真庭市長
 - 小田切 徳美 明治大学 農学部 教授
 - 川口 幹子 対馬グリーン・ブルーツーリズム協会事務局長
 - 作野 広和 島根大学教育学部教授
 - 佐藤 宣子 九州大学大学院 農学研究院 教授
 - 高橋 由和 NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長
 - 谷 一之 北海道下川町長
 - 沼尾 波子 東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 事務局説明事項
 - ・海外の人口減少地域に対する施策に関する調査について
 - (2) 委員プレゼンテーション
 - ・川口幹子委員
 - ・沼尾波子委員
 - (3) 意見交換
- 3 閉会

<資料>

- 資料1-1：海外の人口減少地域に対する施策に関する調査の概要
- 資料1-2：海外の人口減少地域に対する施策に関する調査
- 資料1-3：海外の人口減少地域に対する施策に関する調査（参考）
- 資料2：川口幹子委員資料
- 資料3：沼尾波子委員資料

(議事概要)

【議題1 (事務局説明事項)】

○主な意見等

- ・海外調査について、首都圏への人口集中の状況について確認する必要がある。
- ・EUについては、農業政策の枠組みの中で条件不利地域への支援策を実施しているのでその状況について確認する必要がある。
- ・各国の条件不利地域対策の考え方について、単純に産業振興というだけではなく国の安全保障といった考え方が背景にある可能性があるため、整理する必要がある。

【議題2 (委員プレゼンテーション)】

○主な意見等

- ・対馬市では、農業の営みによってツシマヤマネコの生育環境が保たれていたため、農業人口の減少に伴いツシマヤマネコも減少している。過疎という問題と生物多様性の劣化という問題は必ずしも別々の問題ではない。人の暮らしが地域の生物資源をきちんと利用して成り立つような仕組みを作ることが生物多様性を保全することにつながる。
- ・耕作放棄地となるような農地は条件が悪いところが多く、単純に農業をするには課題がある。一方で、環境教育のための学習教材や観光資源としての魅力がある。民泊の教育効果は非常に高い。
- ・これまでは経済は成長しなければならないというのが前提にあったかもしれないが、これからはいかに持続可能かを考えた政策をしていく時期になるのではないかと。そのような時代に生き残る地域というのは、その地域にある資源、人材、技術、知恵を生かそうというベクトルに早く舵を切った地域ではないか。
- ・過疎地域の中には、比較的裕福な地域ほど子供が大学に行って戻ってこなくなり、過疎化が進んだという地域もある。今までは学んだ人が中央で働くというベクトルだったが、今後、大学で学んだ知識・経験を生かす場所が地方にあるという状態を作れば、地方で自分の夢を実現するという流れが出てくるのではないかと。
- ・教育の分野では、特別支援教育の支援員やALT、少人数学級のための教員などについて、地方交付税で算定されている水準を超えて配置をしなければならない市町村も少なくない。もちろん財政状況によって配置しないという判断もあるが、近隣の市町村が配置している場合、その地域だけ配置しないわけにはいかないという話もある。このような財政需要について、過疎債(ソフト分)が上手く活用されている側面がある。
- ・過疎債(ソフト分)は2つの役割を担っていると考えられる。1つ目としては、人的資本や制度資本など持続可能な地域づくりのために必要なソフトの支出を賄うというものである。2つ目としては、地方交付税制度では対応しきれないが、

それぞれの地域で共通に必要なある種のコモンニーズを支えるというものである。

- ・ イベントや効果が一時的な事業に過疎債（ソフト分）を活用するのは望ましくない。むしろ、中長期的な地域の資産・財産となる事業にたいして活用すべきである。また、市町村の過疎地域自立促進計画の中で事業を通じて構築する資産・財産が何かを明確にすることが必要ではないか。
- ・ 人的資本や制度資本の例として、地域運営組織等への交付金については、一定程度、過疎債（ソフト分）を活用するのはやむを得ないのではないか。また、コモンニーズの例として、特別支援教育や外国語指導などに活用することも考えられるのではないか。一方、まつり、花火大会、マラソン等の観光イベントやプレミアム商品券などの一過性のイベント補助、一過性の地元消費喚起策に活用することは望ましくないのではないか。
- ・ 地域振興については、内発的発展という要素と格差是正という要素の二兎を追うバランスをとることが重要であり、過疎債にはその二つの要素があるのではないか。

以上